

首をかしげさせる時事通信の報道

ベネズエラの状況について、一般には内外の報道で、実際の状況を見ない、かなり歪められた報道が行われていますが、昨日の時事通信の報道は、実に首をかしげさせるものでした。時事通信の全文を引用します。下線は筆者。

「17.09.05 時事通信

ベネズエラ大統領、演説取りやめ＝スイス訪問できず？－人権理（事会）

2017年9月5日 19:11 発信地：スイス

【9月5日 時事通信社】国連は5日、スイスのジュネーブで11日に始まる人権理事会でベネズエラのマドゥロ大統領が予定していた演説が取りやめになったと発表した。理由は明らかにしていない。

中南米屈指の産油国ベネズエラは、反政府派の抗議活動と、それに対する弾圧で大混乱に陥っている。マドゥロ大統領は国際社会から非難を浴びる中、スイス訪問を強行する構えを見せていたが、困難になった可能性がある。

国連報道官は『マドゥロ大統領は人権理で演説しない。代わりに閣僚が会合初日に演壇に立つ予定だ』と説明した。

この記事は、マドゥーロ大統領が国連人権委員会での演説を止めることになったという客観的事実と、その理由が、マドゥーロ政権の反政府派に対する弾圧で国内が「大混乱」に陥っているという記者の推定評価の二点に分かれています。

客観的事実はその通りですが、代わりにアレサ外相が出席し発言するという、他社の報道している事実を報道しなければ、記者の意図かどうかわかりませんが、マドゥーロ大統領が批判をかかわすために逃げたという印象を与えないでしょうか。実際は、マドゥーロ大統領は、制憲議会の問題、地方選挙の問題などで忙殺されており、時間が取れないと見るのが普通でしょう。

もっと問題なのは、果たして、現時点でベネズエラは「弾圧で大混乱」している状況でしょうか。8月1日以来のベネズエラの新聞、最右派から最左派の新聞を見ても、この一カ月過激な抗議デモは姿を消し、政府側、野党側も10月10日に予定されている一斉県知事選挙の各陣営の候補者選出の予備選挙に懸命に取り組んでいるところです。反政府派も過激なデモ、公共施設の攻撃が国民の支持を得られないことを世論調査が示していることを知っており、選挙に勝つために戦術を変えて過激デモを控えています。その結果デモ隊と警官隊の衝突もなく、また当然のことながら死者も出ず、比較的平穏な時期なのです。左右が選

挙戦で、議論と道理で国民に支持を問うことは、多くの国民が望んでいることです。こうしたベネズエラ情勢の新たな局面を見ず、一面的な主観的判断で報道するということがいかなもののでしょうか。記者は、最近のベネズエラの最右派から最左派の新聞を見た上での判断なののでしょうか。それとも、「大混乱」が、ベネズエラ情勢の枕ことばになっているのでしょうか。

次に、同日のロイターの記事を紹介します。

「2017年9月5日 ジュネーブ（ロイター）

ベネズエラ大統領、国連人権理事会に出席せず。

ニコラス・マドゥーロ、ベネズエラ大統領は、以前出席との連絡があったが、来週、国連人権理事会に出席しないと、5日国連及び同国の外交官が述べた。

マドゥーロは、ベネズエラの人権、民主主義を抑圧していると批判されており、9月11日の国連人権理事会の3週間の会期の開会式で発言すると思われていた。

『大統領は、来ない』とジュネーブのベネズエラの外交官はロイターに述べた。

ロラント・ゴメス理事会報道官は、声明で『理事会の事務局が受け取った通知によれば、ベネズエラのマドゥーロ大統領は、人権委員会には出席しないにご承知いただきたい』と述べた。

『代わりに、ホルヘ・アレサ・モンセラット外相が理事会会議の初日に発言すると計画されている』と付け加えた。

ロイターの記事は、客観的事実のみの報道ですが、客観的事実に、記者の判断を付け加えて報道することは、よくあることです。しかし、その際、ベネズエラ国内の左右のメディアの報道を良く掌握してから行うことが必要でしょう。

（2017年9月6日 新藤通弘）